



「はつしま」

初崎めぐる

遊歩道



福島の北端初崎はみことな自然林で、玄海国定公園の区域に入っています。西海岸は海水浴場であつて夏は観光客でにぎわいます。自生のやぶつばきがたくさんあり観賞地でもあります。



「米どころ」

土谷白米の

名もゆかし



土谷は土地が肥えていて西南に向いて日照が豊かで水がかりもよいため、土谷の米は福島の中でも特においしいといわれています。

その土谷の小字に「白米」という地名があります。米どころ土谷にふさわしい地名です。



「天正の」

悲劇の

武将団助公

寺山団助は松浦党志佐純意の重臣で天正17年（1589年）ごろ、鍋串で福島を治めていました。

志佐方の勢力を殺ごうとした平戸松浦のざん言によって主君の手勢の夜襲にあい、悲壮な最後をとげました。





# 特集 福島かるた物語

## 福島の素晴らしさを

### 伝えたかった

福島には、多くの素晴らしい名勝、旧跡、風物、郷土芸能などがあります。この素晴らしさを多くの人に知ってもらいたい。「いろはかるた」を作ろうと思った出発点はそこでした。福島大橋が開通し、観光PRの一助になればという思いが強かったですね。「いろはかるた」を利用してもらうことで福島の観光を広めたかったんです。もう一つは、旧跡や名勝、郷土芸能を後世に残していきたいという思いがありました。

取り上げることと、いろはにほへど…という頭文字に当てはめる時には少し時間をかけましたね。

### ふるさとを愛する気持ち は変わらないでしょう

「いろはかるた」ができてから約30年が経とうとしています。この30年で福島も目まぐるしく変化しましたね。しかし、情景が時代とともにどんなに変化しても、そこに住んでいる人がふるさとを愛する心はいつまでも変わらないと思います。

「いろはかるた」の内容が、今にそぐわない部分もありますが、これはこれとして昔の物語として残っていけばうれしいですね。



かるたことばを作った

よしひろ  
**小川 吉弘さん**  
(福島・播磨釜、87)

## 福島に愛着があったから

### 描けたのでしょね

福島は、祖母の出身地なので、親しみとつながりを持っていました。より身近に感じるところがありましたね。

福島町は、文化的にも住んでいる皆さんも質の高い活動をしていらっしやったので、小川先生から「いろはかるた」のお話をいただき共感したところですね。

紙版画は、親しみやすい技法で温かみがありますので、以前から好きでよく作っていました。「いろはかるた」も1枚1枚紙版画にしようと考えていましたが、そのころはとても忙しい日々を過ごしていました。



絵札を描いた

ひろし  
**坂口 寛さん**  
(今福・人柱、80)

そのため、手書きで版画風に描くことにしました。かるたことばを基に、すべてを回りスケッチしました。構図やコントラストを考え、版画らしさが出るよう心掛けました。

### 大事にしてもらい、

### ありがたいですね

現在、福島小学校が、ふるさとを知るための授業で「いろはかるた」を活用しているという話や、福島中学校の校長時代に中学生だった方から「子どもが、「いろはかるた」を研究している」という話を聞き、「いろはかるた」が生きているんだと感じました。30年近く経ってからのこと、なにより大事にしてくれていることは、たいへんありがたいことですね。